

土木学会 第59回海岸工学講演会にて、
沿岸災害研究分野の研究チームが、海岸工学論文賞受賞（平成24年11月16日）



以下は、受賞論文の詳細です。

題目：

マルチモデルアンサンブルによる気候変動に伴う熱帯低気圧特性の将来変化予測

著者：

森 信人，村上裕之（ハワイ大学研究員），志村智也（博士学生1回生），中條壮大（熊本大学助教，前防災研究所特任助教），安田誠宏，間瀬 肇

内容：

気象研究所 AGCM アンサンブル実験結果を元に、台風のマクロ統計量の将来変化について評価を行った。その結果、1) 主な台風の発生海域では、台風個数の将来変化割合は北半球の各海域で 13～21% の減少であること、2) 経度方向の発生位置の将来変化は、北西太平洋で 1.58 度であり、海域により 2 倍の開きが見られること、3) 中緯度に位置する日本周辺では、台風経路の将来変化が顕著に出やすいこと、3) また、中心気圧については緯度方向に顕著な将来変化傾向が見られ、速度および進行方向には有意な将来変化は見られないことを示した。